NEWS 宮崎東 112号

独立行政法人 国立病院機構 宮崎東病院／広報誌

2017.11

一足早く…

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

目　次

1．巻頭言
2．平成 29 年度　開放型医療機関紹介
3．1 階病棟（児童精神科）のご紹介
4．第 71 回 国立病院総合医学会に参加して
5．新任のご挨拶
6．編集後記

巻　頭　言　　晩秋の頃

院長
比嘉　利信

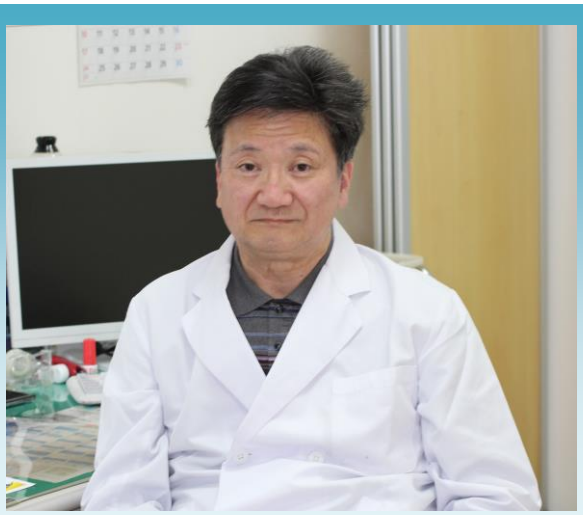
公園では、落ち葉が舞い、晩秋のたたずまいであるが、窓辺には、柔らかな日差しを受けてシクラメンやポインセチアが美しく映えている。

院内では、電気機械設備の点検・整備を行うため、11 月 18 日（土）法令に基づく停電作業が実施され、8 時に対策本部を設置した。電子カルテや検査等の診療機能はすべて停止し、電動式のドア、トイレ、水道も使用できない。停電時は、非常用電源による医療機器がうまく作動するかどうかが大きな鍵である。重要なチェックポイントは 2 回ある。通常電力が落ち、非常用の自家発電に切り替わる時と、自家発電から通常電気に復電する時である。各部署の責任者は点検項目を確認し、本部にトランシーバーで報告する。人工呼吸器により生命を維持している入院患者も多いが、万が一、自家発電が作動せず電気が供給されなければ、マンパワーでしかない。こんな非常事態にならないことを念じつつ、停電作業は無事終了し、本部を解散した。

院外では、地域医療構想や介護保険事業計画を踏まえた平成 30 年度からの宮崎県医療計画を策定中である。5 疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）・5 事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）及び在宅医療への取組みが重点的に推進される。県内の 2 次医療圏は 7 区域（延岡西臼杵、日向入郷、宮崎東諸県、西都児湯、日南串間、都城北諸県、西諸）が設定されているが、人口減少や入院に係る医療動向により、医療圏の見直しも提起されている。地域医療構想では、病床機能の明確化と在宅医療への移行が課題となる。私たち宮崎東病院は、皆が住み慣れた地域で安心して住める医療環境の充実に貢献したい。

平成２９年度　開放型登録医療機関紹介

たじり皮膚科医院
院長　田尻　明彦　先生



〒889-1607
宮崎市清武町加納 2-41-1
TEL 0985-84-1110
標榜診療科：皮膚科

平成 5 年に清武町加納に開業し、今年で 24 年目になります。昭和 55 年に現在の宮崎大学皮膚科に入局しましたが、当時の宮崎市南部、清武町、田野町には皮膚科がなく、大学の外来は地元の患者が大挙して受診してくる状況でした。いち早く紹介状制を導入して重症患者のみを診察するシステムとしましたが、それでもそのような受診してくる患者を断ることはできず、週 3 回の外来は多忙を極めていました。状況を改善すべく現在の地に開業した次第です。

地域医療に少しでも貢献したいと考えて日常の診察を行っています。皮膚疾患は奥が深く、アレルギー、感染症、膠原病、内臓疾患の皮膚症状、熱傷などの外傷、悪性腫瘍など多岐にわたっており、未だに経験したことがない疾患が多数あるのが現状ですが、適切な診断や治療を行えるように日々研鑽を積んでいます。近年は高齢者が増加していますが、高齢者では以下のような皮膚疾患が問題となります。

皮膚悪性腫瘍：有棘細胞癌、基底細胞癌、ボーエン病、パジェット病、悪性黒色種など多数の皮膚悪性腫瘍がありますが、いずれも高齢になれば増加してきます。放置すれば目に見えて悪化してきますので、どんな高齢者でも治療する必要があります。早期に発見すれば 100 歳でも外来で手術可能ですので、早期発見、早期治療が大切です。「なんだかおかしい」と思われる皮膚症状があればご紹介下さい。

皮膚の痒み：高齢者は痒みを訴える患者が多いのが特徴です。加齢による皮膚の乾燥によるもの、アトピー性皮膚炎や薬疹などのアレルギー、疥癬や白癬などの感染症、水疱性類天疱瘡などの自己免疫疾患、肝障害・腎障害などによる痒み、など原因は多岐にわたります。高齢者のほとんどは多数の薬剤を内服していますが、薬疹かどうかは重要な問題です。皮膚科専門医でも鑑別は難しいのですが、原因によって治療法が異なりますので、難治性の患者さんがおられましたら是非一度ご紹介下さい。

医学の進歩に伴い、新しい治療法が出現しています。できるだけ最新の医療機械を揃えて地方でも最先端の治療が出来るように努力していますが、なかなかついていけないのが現状です。重症例では、基幹病院との病診連携は欠かすことはできません。東病院には何度か往診して入院患者を診察させていただきましたが、現在は大学から月に 2 回診察を行っているようですので、皮膚疾患に関しては安心しています。今後とも宜しくお願い致します。

※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在、101 医療機関の先生方にご登録いただいております。

１階病棟（児童精神科）のご紹介

１階病棟看護師長
釜﨑　美和

平成 29 年４月　児童精神科分野に特化した宮崎県内唯一の専門病棟（30 床）として「子どもの心の診療センター」が開設しました。

児童精神科医２名、小児科医１名、精神保健福祉士１名、心理療法士１名、看護師 18 名、看護助手１名が配置されました。看護師 18 名中、精神科経験のある者は３名、しかし、児童精神科の経験者はいませんでした。初めてのことばかりで手さぐり状態、模索しながらの毎日でしたが、あっという間に８カ月が経ったような気がしております。

児童精神科では嫌な思いや苦しい思いをしながらもそれを自分だけではうまく解決できず、どうしてよいかわからない状態になる事がしばしば見受けられます。その子供たちに対し、『児童精神科病棟では家庭・福祉・教育・保健とともに「抱え」「治療」し、「育てる」療養環境を提供します』という理念を掲げケアを行っています。発達障害を伴う精神疾患や心身症などを抱える子ども達が入院しながら隣接の赤江まつばら支援学校に通っています。まだ学校に通えない子ども達は訪問教育を受けたり、近くの適応指導教室に通ったりと、教育の保証をしています。

毎朝、21 名の子ども達を「行ってらっしゃい」と学校に送り出し、学校から帰ってきたら「お帰りなさい」と迎え入れます。廊下を通っている職員の皆様にもお声をかけて頂き、元気をもらい子ども達は頑張って登校しています。

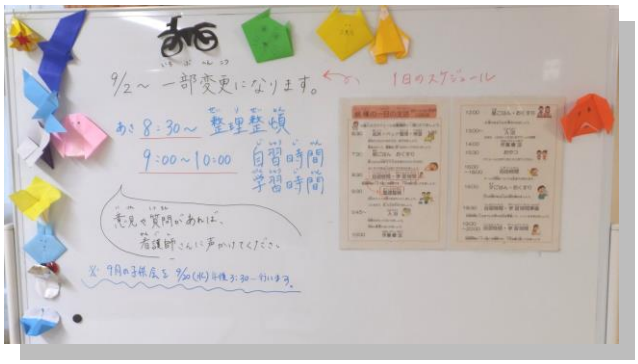
病棟では毎日、午前と午後の２回、カンファレンスを開催し、多職種でのケース検討や問題点の解決に努めています。その他にも学校や関係機関などとのケース会議を定期的に開催しております。

また、看護師、心理療法士、精神保健福祉士、看護助手が創作、運動、クッキング、園芸など社会性や情緒をはぐくむ作業活動に日々、取り組んでいます。

夏休みには宮崎大学教育学部　特別支援教育専攻の学生ボランティアに協力を頂き、夏プロ８（夏季休暇中の集中プログラム８日間）を開催しました。学習やゲーム、最終日にはお楽しみ会と称し、白玉団子作りを行い、皆で食し、子どもたちも大喜びでした。

スタッフは時には父親のごとく厳しく叱り、時には母親のごとく大地のように「抱え」、子ども達ひとりひとりの事を考え、日々奮闘しております。色々な状況が起こってもその事を笑い飛ばして前向きに頑張っているスタッフに頼もしさと感謝の念を抱かずにはおれません。子ども達と対面していると自然に笑顔がでるのは当然のことですが、皆とても明るく、笑いの絶えない病棟です。

児童精神専門病棟としてふさわしい看護が実践できるようこれからも努力を重ねて参りたいと思います。病院全体で支えて頂いております事に感謝申し上げながら、今後も「子どものこころの診療センター」の発展に貢献したいと思います。



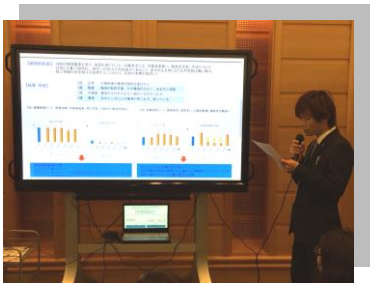
第 71 回 国立病院総合医学会に参加して

1 階病棟副看護師長
富田　明子

11 月 10 日、11 日に香川県高松市で行われた、国立病院総合医学会に当院から 3 名が参加しました。一般演題のポスターセッションは 3 題で、「看護職員能力開発プログラム Ver.2 に基づいた院内教育における看護師長の役割」4 階病棟岡本洋子看護師長、「神経難病患者の口腔内乾燥に対する口腔ケア～経鼻経管栄養患者へのレモン水スプレーの有用性～」3 階病棟大和田裕介看護師、「『子どもの成長と育ちを支える』児童精神科病棟立ち上げに向けた取り組み～児童精神準備室での 8 か月間の活動報告～」1 階病棟富田明子がそれぞれ発表を行いました。今回のポスターセッションは、従来の紙ポスター形式ではなく、70 インチの大型モニターを用いた e ポスター形式での発表でした。操作はすべて画面上で行うため、事前に操作練習を行い、これまで自分たちが行ってきた成果を全て発表することができました。また e ポスターセッションは会場が 2 か所に分かれ、会場内はブースごと 9 か所に区切られており、大勢の人が会場を訪れていました。

香川はうどんや瀬戸内海の海鮮も美味しく、オリーブで有名な小豆島も素晴らしい景色であり、人が集まる環境には良い場所であるなと思いました。

どの病院も自分たちが行ってきた看護を詳細にわかりやすく発表しており、パワーポイントの作成技術も上がっているように感じました。今回発表した内容を今後も看護に活かしながら継続して取り組んでいきたいと思います。



新任のご挨拶

神経内科医師
谷口　晶俊

10 月 1 日より赴任いたしました、谷口晶俊と申します。
宮崎大学神経内科（旧第三内科神経グループ）所属で、医師としては 8 年目になります。これまで神経内科全般を診療してきましたが、特に変性疾患や慢性頭痛に興味を持っております。

大学病院に長く勤務していたため、ほとんど急性期の医療の中で過ごしてきましたが、こちらではじっくりと患者さんと向き合うことができ、また違った魅力と感じております。また、以前大学病院で私が担当していた患者さんと再会できた（私のことを覚えていてくれた）ことも大きな喜びでした。患者さんの記憶に残る医師になりたいと改めて思いました。

少しずつですがこちらでのカルテ操作や診療システムに慣れてきたところであり、まだまだ戦力としては物足りないものと思われますが、これからも他職種の方々も含めていろいろな刺激を受けつつ成長していきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集後記

昨年の冬はさすが南国宮崎と感じさせられる暖かい冬となり、暖房を使い始めたのは 1 月に入ってからでした。しかし今年は１１月にも関わらず最低気温が 5 ℃前後と一転して寒い冬となっています。寒さが苦手な小職にとりましては、辛い冬になりそうですが、何事も気合が大事…いち、に～、さん、ダ～で乗り切りましょう…。

（ 編集委員　A ）